

チャレンジ講座（文系第4回）を実施しました

8月29日（水）に第4回文系チャレンジ講座が、本学教育学部の小山拓志先生を講師に迎え、『『歩け 観よ 考えよ』で学ぶ地域の災害リスクと防災教育』というテーマで行われました。

遠隔配信された中津南、大分鶴崎、日田、国東、大分西、高田、安心院、臼杵、竹田、三重総合、別府翔青、大分雄城台、大分商業及び来学の玖珠美山、大分の計15校328名が受講しました。

地理学がご専門の小山先生が、地域の災害リスクについて時間軸（過去・現在・未来）を意識して理解することと、自分で歩いて観て



（観察して）考えることで地域を見る目を養うことの2点を目標として講義を行われました。

まず、大分県で近年発生した自然災害について触れ、大分県だけでなく日本が災害大国であることを確認されました。我々はいつ、どこにいても災害のリスクと隣り合わせであり、未来の災害リスクを予測するためには現在だけでな

く過去の災害について知ること、そして地域の災害リスクを自分で見つけて学ぶことの重要性を説明されました。

ここで、具体的な事例として講義参加校周辺の地形や災害リスクについて生徒たちに考えさせ、先生が実際の写真や古地図などを用いて解説されました。その中でも特に中津南高校周辺を取り上げ、近くの細い道がかつて河川であった旧河道であること、旧河道は洪水時に浸水しやすいことなどを大変丁寧に説明されました。



- 地域を知れば、過去を知れば、現在を知れば、何が起るのかを予測できる(未来)
- 酷な言い方だが、「知っている」と「知らない」＝知識の有無が、時に「生きる」か「死ぬ」＝「命」を左右することも…

以上を踏まえて、災害を完全に防ぐこと（防災）は基本的に不可能だが、地域を見る目を養い、地域について知ることによって「減災」につながると述べられました。また、知識の有無で生死を分けることもあり、防災に答えはなく臨機応変な対応力が重要であることを改めて強調されました。

最後に、災害は視点を変えれば豊かな自然環境をはぐくむ力でもあり、われわれ人間

は自然現象とつながって「共生」していくしかない、とまとめられました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（97%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（99%）、「映像はよく見えた」（94%）という結果が出ました。受講生の主な感想として、「命を守るためにも地域のことをしっかり勉強しようと思った」「現在の地図から過去の地形が分かることに驚いた」といったものが寄せられました。

